

令和6年度 清原北小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

「人間尊重の教育」を基盤に、自ら考え、正しく判断し、豊かな心をもって、たくましく生きる児童を育成する。

【考え深く】

【こころ豊かで】

【たくましく】

活用期	・ 自ら考え、工夫する子	・ こころ豊かで思いやりのある子	・ 気力と体力のあるたくましい子
基礎期	・ 自分で考え、学習する子	・ 親切で思いやりのある子	・ 元気でがんばる子

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

【小規模特認校として、保護者や地域から信頼され連携・協力しながら、夢と理想をもって共に成長していく学校】

児童一人一人の良さを伸ばし、その成長を支え促す学びの場となるよう、児童・教職員・保護者・地域が互いに信頼し合い、関わり合いながら教育活動を一層充実させ、特色ある学校づくりを推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

《基本方針》 児童・教職員・保護者・地域が連携を深め、地域の教育力を高めながら教育活動の充実を目指し、特色ある教育活動のキーワードとして「合言葉・3つの学び」を提示するとともに、「3つの学び」に対応した「学校づくりの3視点」を設定し、学校運営に参画するための「教職員の資質」を念頭に置いて学校経営に努める。

- （1）めあてと達成感：児童一人一人がめあてをもって、生き生きと学習や活動に取り組み、達成感を味わうことのできる学校をつくる。
- （2）自己肯定感と思いやり：児童が自分の良さに気づき、他者の良さも認め、思いやりの心をもって互いに伸びていこうとする気風が満ちている学校をつくる。
- （3）気力と体力：児童自らが、体力・健康・食生活の向上・安全を関連付けた望ましい生活習慣を身に付け、気力と体力が充実している学校をつくる。

【清原地域学校園教育ビジョン】 自己を見つめ、自己のよさを生かした夢の実現に向けて、主体的に取り組む児童生徒の育成 2nd stage ～人との豊かなかかわりを通して～

4 教育課程編成の方針

- ・小規模特認校として、児童の実態や学校の特色、地域の教育力を生かして家庭や地域との連携を図る。
- ・教育課程を介して目標を学校と保護者、地域が共有し、教育内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを明確にしながら、保護者や地域との連携・協働によりその実現を図る。
- ・教科的横断的な視点に立ち、教育内容を組織的に配列したり、教育活動に必要な人的・物的資源等を活用したりする。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学校運営】

- 小規模特認校として、学校・家庭・地域が互いに連携を深め、小中一貫教育の基本方針に沿いながら学校力の向上を図る。
- ・教職員として研鑽を積み、専門職としての資質・能力を高め、協働しながら教科・学級・学校経営の適正化を図る。
- ・業務の効率化や適正化を図るとともに、勤務時間を意識した働き方を推進する。

【学習指導】

- ・めあてが「はっきり」分かり、「じっくり」考え、「すっきり」振り返る授業を展開し、個に応じたきめ細やかな指導により、「基礎学力の定着」を図る。
- 主体的に学ぶ力と、人との豊かなかかわりを通して学ぶ力を養う。

【児童指導】

- ・自分のよさや可能性を認識し、進んで課題解決や目標達成に取り組むための資質・能力として「自己肯定感」を育む。
- 認め合い、励まし合い、協力し合える豊かな人間関係を築き、みんなと心が通い合う学校の雰囲気醸成する。

【健康（体力・保健・食・安全）】

- 体力向上・健康増進・食生活の充実・安全に関する望ましい生活習慣を身に付けさせ、心身ともに「健康で安全な生活を創る力」を育成する。

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	A 1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、学習課題を解決するために、友達と話し合ったり、必要な情報を集めたりしながら、じっくり考え、進んで学習に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上	①授業のねらいを明確にして児童に示すとともに、考える時間を確保したり授業形態を工夫したりして、児童が積極的に授業に取り組めるよう支援する。 ②互いの思いや考えを伝え合う場を授業において意図的、効果的に設定し、言語活動の充実を図り、学び合い、高め合う授業の工夫を推進する。 ③児童が発言したり、考えを友達と伝え合ったり学び合ったりする活動を計画的に学習活動に取り入れる。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答 89.1% 【次年度の方針】 ①授業のねらいを明確にして児童に示すとともに、考える時間を確保したり授業形態を工夫したりして、児童が積極的に授業に取り組めるよう支援する。 ②互いの思いや考えを伝え合う場を授業において意図的、効果的に設定し、言語活動の充実を図り、学び合い、高め合う授業の工夫を推進する。 ③児童が発言したり、考えを友達と伝え合ったり学び合ったりする活動を計画的に学習活動に取り入れる。
1- (2) 豊かな心を育む教育の推進	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒教職員 80%以上	①掲示物「ハッピーな～べ～号」を月2回以上活用して良い所を認め、人権週間に紹介したり、道徳科の授業を中心に多様な考えや価値観を認め合う機会を多く作ったりする。 ②「 <u>ふわふわ言葉</u> 」を推奨し、 <u>思いやりのある言葉で相手に接することができるように、児童集会での啓発や各教室の掲示物、朝や昼の校内放送、な～べ～カードを活用して定着を図る。</u>	B	【達成状況】 児童の肯定的回答 92.1% 教職員の肯定的回答 100% 【次年度の方針】 ①掲示物「ハッピーな～べ～号」を月2回以上活用して良い所を認めたり、道徳科の授業を中心に多様な考えや価値観を認め合う機会を多く作ったりする。 ②「 <u>ふわふわ言葉</u> 」を推奨し、 <u>思いやりのある言葉で相手に接することができるように、児童集会（児童総会・いじめゼロなかよし集会）での啓発や各教室の掲示物、朝や昼の校内放送、な～べ～カードを活用して定着を図る。</u> 【達成状況】
	A 3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒教職員 80%以上	①各種検定（鉄棒・水泳・縄跳び）において、今年度の目標値を設定させるとともに、中間にも目標値の確認を行い、より目標値に近づけるよう意識させる。 ②各教科及び各活動において、キャリアパスポートや振り返りカード等を活用して、振り返りを行い、自己の変容を確認させる。 ③教職員は、結果でなく努力の過程を見取って称賛し、意欲を高める。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答 91.1% 教職員の肯定的回答 100% 【次年度の方針】 ①各種検定（鉄棒・水泳・縄跳び）において、今年度の目標値を設定させるとともに、中間にも目標値の確認を行い、より目標値に近づけるよう意識させる。 ②各教科及び各活動において、キャリアパスポートや振り返りカード等を活用して、振り返りを行い、自己の変容を確認させる。教職員は、結果でなく努力の過程を見取って称賛し、意欲を高める。

1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」における肯定的回答 ⇒教職員 80%以上 ⇒保護者 80%以上	①健康や安全に対する情報を充実させ、周知方法を工夫し、保護者が児童の健康や安全に興味関心をもてるような内容にする。 ②「スクスクウィーク」や「スクスクチェック」により、家庭での生活習慣への意識を高めるとともに、できている児童を称賛し、取組を持続させる。 ③交通安全教室や避難訓練での振り返りを活用し指導や称賛を行うことにより、児童自身の適切な判断力の向上を図る。 ④手洗い、うがい、消毒等、感染症の予防に努める。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答 100% 保護者の肯定的回答 86.5% 【次年度の方針】 ①「全校スクスク」での健康や安全に対する情報を充実させ、家庭学習ががんばりカードなどを活用し保護者が児童の健康や安全に興味関心をもてるように周知方法を工夫する。 ②「スクスクウィーク」や「スクスクチェック」により、家庭での生活習慣への意識を高めるとともに、できている児童を称賛し、取組を持続させる。 ③交通安全教室や避難訓練での振り返りを活用し指導や称賛を行うことにより、児童自身の適切な判断力の向上を図る。 ④感染症予防（手洗い・うがい等）や外遊びの励行に努める。
1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、自分の良さや考えを生かしたり、周りと協力し合ったりして、進んで生活をよりよくしようとしている。」における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒教職員 80%以上	①道徳科や学級活動等を通して、自他の良さが認められる場面を設定し、児童の自己肯定感や自己有用感を高める。 ②生活科や総合で、社会との関わりについて学習したことを実際の生活に生かそうとする態度を育てる。 ③<u>昼会や学級でのスピーチにおいて頑張っていることなどについて話したり、聞いたりすることにより目標に向かって努力することの大切さに気付かせるとともに、自分の良さを認められる機会を作る。</u>	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 90.1% 教職員の肯定的回答 100% 【次年度の方針】 ①道徳科や学級活動、児童会活動を通して、自他の良さが認められる場面を設定し、児童の自己肯定感や自己有用感を高める。 ②生活科や総合で学習したことを実際の生活に生かそうとする態度を育てる。 ③<u>昼会や学級でのスピーチにおいて頑張っていることなどについて話したり、聞いたりすることにより目標に向かって努力することの大切さに気付かせるとともに、自分の良さを認められる機会を作る。</u>

2- (1) グローバル 社会に主体 的に向き合 い、郷土愛 を醸成する 教育の推進	A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、外国語活動（英語）の授業や AET との交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	①朝の放送や健康観察のやり取りを中心に、学習の場以外でも、児童が英語を聞いたり話したりする機会を積極的に設ける。 ②AET や担任が授業だけでなく、朝の会・給食の献立・簡単な指示など、日常生活の中でも意識して英語で話したり、積極的にやり取りを見せたりして英語表現に慣れ親しませる。また、AET は他の教科の授業にも参加し、児童と積極的に会話をするようにする。 ③廊下や階段の蹴込板に英語の掲示物を貼ったり、職員室前の掲示コーナーに各学年の学習内容を掲示したりすることにより、英語での表現に触れ、それをもとにAET と話す機会を増やす。	【達成状況】 児童の肯定的回答 84.2% 教職員肯定的回答 100% 【次年度の方針】 ①引き続き、朝の放送や健康観察のやり取りを中心に、学習の場以外でも、児童が英語を聞いたり話したりする機会を積極的に設ける。 ②AET や担任が授業だけでなく、朝の会・給食の献立・簡単な指示など、日常生活の中でも意識して英語で話したり、積極的にやり取りを見せたりして英語表現に慣れ親しませる。また、AET は他の教科の授業にも参加し、児童と積極的に会話をするようにする。 ③廊下や階段の蹴込板に英語の掲示物を貼ったり、職員室前の掲示コーナーに各学年の学習内容を掲示したりすることにより、英語での表現に触れ、それをもとにAET と話す機会を増やす。
	A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 「私は、宇都宮の良さを知っている。」 における肯定的回答 ⇒児 童 80%以上	①生活科・社会科・総合的な学習の時間（宇都宮学）などで、宇都宮の歴史や伝統文化等に触れたり、地域素材を活かした教育活動の展開・充実を図ったりすることで、宇都宮の良さを実感させる。 ②児童が学んだ宇都宮の良さの情報を学年だよりやHP、学校公開日を活用して発信し、保護者との連携も図る。 ③道徳科では、校外活動や地域の方と関わった学習との関連を図り、郷土を愛する心情を育む。	【達成状況】 児童の肯定的回答 89.1% 【次年度の方針】 ①生活科・社会科・総合的な学習の時間（宇都宮学）などで、宇都宮の歴史や伝統文化等を理解させ、地域素材を活かした教育活動の展開・充実を図りワークシート等にまとめることにより、良さを実感させる。 ②児童が学んだ宇都宮の良さの情報を学年だよりやHP、学校公開日を活用して発信し、保護者への周知も図る。 ③道徳科では、校外活動や地域の方と関わった学習との関連を図り、郷土を愛する心情を育む。
2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A 8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。」 における肯定的回答 ⇒児 童 80%以上 ⇒教職員 80%以上	①各教科において、学習シートや単元のまとめなどで一人一台端末を、高学年は1日に2回以上、中・低学年は1日に1回以上、活用する場を設けたり、AIドリルを活用したりする。 ②一人一台端末やデジタル機器を児童が手軽に活用できるように基本的な操作方法（動画を含む）を指導し、活用する場を増やしていく。 ③図書館司書と連携を図り、低学年は週1回図書館を利用する時間を設け、読書に親しむ機会を作ったり、全学年で教科内容に関連した読み聞かせを行ったりすることで、積極的に図書資料を活用し学習を進める良さに気付かせる。	【達成状況】 児童の肯定的回答 89.1% 教職員の肯定的回答 100% 【次年度の方針】 ①各教科において、学習シートや単元のまとめなどで一人一台端末を、高学年は1日に2回以上、中・低学年は1日に1回以上、活用する場を設けたり、AIドリルを活用したりする。 ②一人一台端末やデジタル機器を児童が手軽に活用できるように基本的な操作方法（動画を含む）を指導し、活用する場を増やしていく。 ③図書館司書と連携を図り、低学年は週1回図書館を利用する時間を設け、読書に親しむ機会を作ったり、全学年で教科内容に関連した図書を紹介したりすることで、積極的に図書資料を活用し学習を進める良さに気付かせる。

2-(3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒教職員 80%以上	①社会科や理科、家庭科、総合的な学習の時間等の時間を活用し、環境や国際理解、食に関する指導や、教科横断的な指導の工夫・改善を図る。 ②児童会活動を中心に環境問題等を話題にして、持続可能な社会への関心を高め、自分たちの生活と地球規模の課題がつながっていることを意識させ、チェック週間を設定し、自分に出来ることに取り組ませる。 ③キャリアパスポートのシートを活用して、夢や目標に向けて努力している自分の姿を捉えさせ、活動意欲を高める。 ④「持続可能な社会」「SDGs」に関する図書コーナーや掲示物を作り、児童の意識の高揚を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答 90.1% 教職員の肯定的回答 88.9% 【次年度の方針】 ①社会科や理科、家庭科、総合的な学習の時間等の時間を活用し、環境や国際理解、食に関する指導や、教科横断的な指導の工夫・改善を図る。 ②児童会活動を中心に環境問題等を話題にして、持続可能な社会への関心を高め、自分たちの生活と地球規模の課題がつながっていることを意識させ、チェック週間を設定し、自分に出来ることに取り組ませる。 ③キャリアパスポートのシートを活用して、夢や目標に向けて努力している自分の姿をとらえさせ、活動意欲を高める。 ④「持続可能な社会」「SDGs」に関する図書コーナーや掲示物を作り、児童の意識の高揚を図る。
3-(1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	①校内支援委員会による組織での対応、少人数指導の推進、かがやきルームの活用、個に応じた支援の工夫などを見直し、適切な支援ができるよう配慮する。 ②スクールカウンセラーや市教育センター、スクールソーシャルワーカーなどの関係機関や保護者との連携を図り、児童の実態に応じた適切な指導・支援を行う。 ③特別な支援を必要とする児童への関わり方や指導法について研修の場をもち、情報を適宜教職員で共有し、より効果的な指導・支援ができるようにする。	【達成状況】 教職員の肯定的回答 100% 【次年度の方針】 ①校内支援委員会による組織での対応、少人数指導の推進、かがやきルームの活用、個に応じた支援の工夫などを見直し、適切な支援ができるよう配慮する。 ②スクールカウンセラーや市教育センター、スクールソーシャルワーカーなどの関係機関や保護者との連携を図り、児童の実態に応じた適切な指導・支援を行う。 ③特別な支援を必要とする児童への関わり方や指導法について研修の場をもち、情報を適宜教職員で共有し、より効果的な指導・支援ができるようにする。
3-(2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒保護者 80%以上	①「いじめは絶対にダメ」を継続指導し、いじわる、嫌がらせなど相手が不快になることはしないことを徹底して指導する。 ②「いじめゼロなかよし集会」において、校長講話や児童会による啓発活動を行い、よりよい人間関係作りに努める。 ③月1回の学校生活アンケートや、日々の様子や教育相談などをもとに、いじめの早期発見・早期解決に努め、毅然とした態度で指導を行う。 ④教職員は、普段から他教室にも目を配り、問題があるもとらえた場合は即対応し、指導する。	【達成状況】 児童の肯定的回答 100% 保護者の肯定的回答 92% 【次年度の方針】 ①「いじめは絶対にダメ」を継続指導し、いじわる、嫌がらせなど相手が不快になることはしないことを徹底して指導する。 ②「いじめゼロなかよし集会」において、校長講話や児童会による啓発活動を行い、よりよい人間関係作りに努める。 ③学校生活アンケートや日々の様子、教育相談などをもとに、いじめの早期発見・早期解決に努め、毅然とした態度で指導を行う。 ④教職員は、普段から他教室にも目を配り、問題があるもとらえた場合は即対応し、指導する。

	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒保護者 80%以上	①道徳科の授業や朝の会・帰りの会等で、「ハッピーな～べ～号」を月2回以上活用し、友達の良い所を積極的に認めることで、一人一人の自己肯定感を高める。 ②学級活動などにおいて、個性や特技を生かす場を意図的に設け、その頑張りを称賛し、児童一人一人のよさに目を向ける指導をする。 ③互いの個性を理解し、よりよい人間関係作りができるよう学習や活動形態を工夫する。 ④児童が欠席した場合、保護者と連絡を密に取り、互いに様子を伝え合うなど、担任が児童との話す機会をもつ。（特に続けて休んだ場合や長期休業明けの欠席） ⑤さくら連絡網や欠席状況共有シートを活用し、全職員が情報を共有して支援体制を整えられるようにする。	【達成状況】 児童の肯定的回答 98% 保護者の肯定的回答 100% 【次年度の方針】 ①道徳科の授業や朝の会・帰りの会等で、「ハッピーな～べ～号」を月2回以上活用し、友達の良い所を積極的に認めることで、一人一人の自己肯定感を高める。 ②学級活動などにおいて、個性や特技を生かす場を意図的に設け、その頑張りを称賛し、児童一人一人のよさに目を向ける指導をする。 ③互いの個性を理解し、よりよい人間関係作りができるよう学習や活動形態を工夫する。 ④児童が欠席した場合、保護者と連絡を密に取り、互いに様子を伝え合うなど、担任が児童との話す機会をもつ。（特に続けて休んだ場合や長期休業明けの欠席） ⑤さくら連絡網や欠席状況共有シートを活用し、全職員が情報を共有して支援体制を整えられるようにする。
3-(3) 外国人児童生徒等への 適応支援の 充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は困ったときに相談に乗ってくれたり、問題を解決しようとしていたりして、私たちが楽しく学校生活を送れるようにしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上	①「褒めて伸ばす」指導を心掛け、児童一人一人が存在感をもち、自己実現の喜びを実感できる学級経営を実践する。 ②児童の観察や教育相談、各種アンケートから児童の悩みや問題を汲み取り、早期対応、早期解決、事後の未届け行う。 ③学校行事や児童会活動、係活動において児童が主体的に活動できる場を多く設定する。 ④縦割り班活動を効果的に実施し、異学年児童同士の交流機会を充実させる。 ⑤小規模校の特性を生かし、一人一人を大切にした教育活動（昼会スピーチなど）の展開や、状況や場面に応じて話す相手を意識させた指導を継続していく。	【達成状況】 児童の肯定的回答 98% 保護者の肯定的回答 98% 【次年度の方針】 ①「褒めて伸ばす」指導を心掛け、児童一人一人が存在感をもち、自己実現の喜びを実感できる学級経営を実践する。 ②児童の観察や教育相談、各種アンケートから児童の悩みや問題を汲み取り、早期対応、早期解決、事後の未届け行う。 ③学校行事や児童会活動、係活動において児童が主体的に活動できる場を多く設定する。 ④縦割り班活動を効果的に実施し、異学年児童同士の交流機会を充実させる。 ⑤小規模校の特性を生かし、一人一人を大切にした教育活動（昼会スピーチなど）の展開や、状況や場面に応じて話す相手を意識させた指導を継続していく。

4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上	①各調査や学級における児童の実態を担当や特別支援教室担当教員、学力向上担当教員、保護者が共有し、それをもとに学級及び児童各個人の適切な目標を設定しながら学力向上に努める。 ②日常の授業実践を重視し、児童の学習状況を的確に把握することにより、朝の学習の時間や習熟度別学習を効果的に活用し、学習内容の確実な理解と定着を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答 97% 【次年度の方針】 ①各調査や学級における児童の実態を担当や特別支援教室担当教員、学力向上担当教員、保護者が共有し、それをもとに学級、及び児童各個人の適切な目標を設定しながら学力向上に努める。 ②日常の授業実践を重視し、児童の学習状況を的確に把握することにより、朝の学習の時間や習熟度別学習を効果的に活用し、学習内容の確実な理解と定着を図る。
4- (2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	①共通理解事項について、打合せや掲示板・Google アプリなどによる周知を徹底し、全職員が連携、協力して、学習指導や児童指導に取り組める体制を強化する。 ②栄養士、司書、AET、特別支援教室担当教員、学力向上担当教員、学級支援事務など、多様な専門性を有する学校スタッフも各種教育活動の実施計画に位置付け、協力して業務に取り組む。 ③学校業務に関して、過重な負担や偏りがなければ、同僚に対して気配りをしながら相互に協力して業務を進める。 ④各分掌主任だけでなく業務内容を複数の目で見て関わり遂行していく。	【達成状況】 教職員の肯定的回答 100% 【次年度の方針】 ①共通理解事項について、打合せ・掲示板・Google アプリなどによる周知を徹底し、全職員が連携、協力して、学習指導や児童指導に取り組める体制を強化する。 ②栄養士、司書、AET、特別支援教室担当教員、学力向上担当教員、学級支援事務など、多様な専門性を有する学校スタッフも各種教育活動の実施計画に位置付け、協力して業務に取り組む。 ③学校業務に関して、過重な負担や偏りがなければ、同僚に対して気配りをしながら相互に協力して業務を進める。 ④各分掌主任だけでなく業務内容を複数の目で見て関わり遂行していく。 ⑤OJT を促進し、若手教員の育成を図る。
4- (3) 学校におけ る働き方改 革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒教職員 80%以上	①電子掲示板による連絡や会議資料のデジタル化、さくら連絡網の有効活用を推進し、業務の効率化を図る。 ②出退勤時刻を意識したり、目標退勤時刻を各自が決めて業務を行ったりすることで、勤務時間厳守を図れるようにする。 ③教職員の事務作業等を、学級支援事務職員が集約して実施することにより、業務の効率化を図る。 ④ボランティアによる参画も含めた業務の効率化を進めていく。	【達成状況】 教職員の肯定的回答 100% 【次年度の方針】 ①情報交換や事務処理の時間を確保するためにさくら連絡網やミライム掲示板を活用して業務の短縮化を図る。 ②出退勤時刻を意識したり、目標退勤時刻を各自が決めて業務を行ったりすることで、勤務時間厳守を図れるようにする。 ③教職員の事務作業等を、学級支援事務職員が集約して実施することにより、業務の効率化を図る。 ④ボランティアによる参画も含めた業務の効率化を進めていく。 ⑤打合せや会議の内容を精選したり、ミライムの掲示板を活用したりすることで時間を削減するとともに、話し合う内容や周知事項を焦点化し効率よく進められるようにする。

5- (1) 全市的な学 校運営・教 育活動の充 実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、児童生徒や教職員の交流、小中一貫教育カリキュラムの作成・見直しなど、『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒保護者 80%以上	①地域学校園の分科会で指導方針等の共通理解を図り指導していくとともに、学習や児童指導の情報交換・連携を充実させ、小中学校間の連携を強化する。 ②小中一貫教育に関する取組の様子を、HPや各種たより等を活用して発信し、周知していく	B	【達成状況】 児童の肯定的回答 100% 保護者の肯定的回答 92.7% 【次年度の方針】 ①地域学校園の分科会で指導方針等の共通理解を図り指導していくとともに、学習や児童指導の情報交換・連携を充実させ、小中学校間の連携を強化する。 ②小中一貫教育に関する取組の様子を、HPや各種たより等を活用して発信し、周知していく。
5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 における肯定的回答 ⇒保護者 85%以上 ⇒地域住民 85%以上	①特認校として家庭・地域・企業と連携した特色ある教育活動（「板戸学習プログラム」等）を教育課程に位置付け、年間指導計画を見直し、改善を図りながら実践していく。 ②町探検や周辺施設との関わりなどの各活動において、地域の教育力を生かした取組ができるよう継続して実施するとともに、取組の様子を掲示したり発信したりする。 ③地域協議会やPTA理事会において学校からの情報を発信し、また地域や保護者の意見を吸い上げ、協力体制を整備していく。	B	【達成状況】 保護者の肯定的回答 100% 地域住民の肯定的回答 100% 【次年度の方針】 ①特認校として家庭・地域・企業と連携した特色ある教育活動（「板戸学習プログラム」等）を教育課程に位置付け、年間指導計画を見直し、改善を図りながら実践していく。 ②家庭・地域人材の参画を得た授業や企業の出前講座等を積極的に行い、取組の様子を校内掲示やホームページ等で発信する。 ③地域協議会やPTA理事会において学校からの情報を発信し、また地域や保護者の意見を吸い上げ、協力体制を整備していく。
6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 80%以上 ⇒保護者 80%以上	①授業時間帯に門扉・校舎出入口の施錠を徹底するとともに、<u>防犯対策について表示することで、児童・来校者への防犯意識を高める。</u> ②駐車場等での規則を周知することで、交通事故の防止に努める。 ③暑さ指数の掲示や、こまめな水分補給など、養護教諭と連携し暑さ対策を周知・徹底することで熱中症事故等の防止に努める。 ④毎月の安全点検を十分に行い、児童及び来校者の安全のため、補修、修繕を速やかに行う。 ⑤さくら連絡網、保健だより等を活用し、家庭と連携し、感染症対策に取り組む。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答 100% 保護者の肯定的回答 100% 【次年度の方針】 ①授業時間帯に門扉・校舎出入口の施錠を徹底するとともに、<u>防犯対策について表示することで、児童・来校者への防犯意識を高める。</u> ②駐車場等での規則を文書やHP等で周知することで、交通事故の防止に努める。 ③暑さ指数の掲示や、こまめな水分補給など、養護教諭と連携し暑さ対策を周知・徹底することで熱中症事故等の防止に努める。 ④毎月の安全点検を十分に行い、不備の早期発見と補修・修繕を速やかに行う。 ⑤さくら連絡網、保健だより等を活用し、家庭と連携し、感染症対策に取り組む。

6-(2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、授業（授業準備を含む）や業務に、デジタルを積極的に活用している。」 における肯定的回答 ⇒教職員 80%以上	①授業や係活動など、児童が学校生活の中で積極的に一人一台端末が活用できるよう、有効な活用方法について情報交換をする。 ②学年に応じたプログラミング教育の実践のために、ICT支援員と協力し、教材を活用しやすい環境を整え、教員の指導力の向上を図る。 ③デジタル機器を効果的に活用した授業や協働ツールを活用した授業の工夫等について研修を設ける。	【達成状況】 教職員の肯定的回答 94.4% 【次年度の方針】 ①授業や係活動など、児童が学校生活の中で積極的に一人一台端末が活用できるよう、有効な活用方法について情報交換をする。 ②学年に応じたプログラミング教育の実践のために、ICT支援員と協力し、教材を活用しやすい環境を整え、教員の指導力の向上を図る。 ③デジタル機器を効果的に活用した授業や協働ツールを活用した授業の工夫等について研修を設ける。
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒保護者 80%以上	①異学年で挨拶運動に取り組み、挨拶のモデル等を提示し積極的な活動を推進する。 ②教職員から積極的に挨拶をし、挨拶の模範を示すようにする。 ③気持ちのよい挨拶をしている児童や学級を放送で紹介し、挨拶をする意欲を高める。 ④明るく挨拶ができるよう児童会を中心に活動を工夫する。 ⑤相手や状況に合わせて挨拶や会釈ができるように、指導・声掛けをする。	【達成状況】 児童の肯定的回答 93.1% 保護者の肯定的回答 82.7% 【次年度の方針】 ①異学年で挨拶運動に取り組み、挨拶のモデル等を提示し積極的な活動を推進する。 ②教職員から積極的に挨拶をし、挨拶の模範を示すようにする。 ③気持ちのよい挨拶をしている児童や学級を放送で紹介し、挨拶をする意欲を高める。 ④明るく挨拶ができるよう児童会を中心に挨拶を啓発する集会活動を行う。 ⑤相手や状況に合わせて挨拶や会釈ができるように、指導・声掛けをする。
	B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、きまりやマナーを守って生活している。」 における肯定的回答 ⇒教職員 80%以上 ⇒保護者 80%以上	①基本的な生活習慣定着のため、年度当初、教職員の共通理解の徹底を図る。（清北小スタンダードの活用）また、学校や学級での様子をHPや学年だよりで積極的に発信し、保護者の理解・協力・連携を強化する。 ②年度初めに学級できまりやマナーを確認し、問題行動が発生した時には共通理解し即対応する。また、児童会主体で啓発活動（いじめゼロ集会、きまりの確認、正しい廊下の歩き方）を行い、全児童が同じ価値観で実践できるようにする。 ③児童が自らマナーやきまりを再確認できるよう、掲示物を工夫したり、月初めの給食の時間を活用して全体指導をしたりする。	【達成状況】 教職員の肯定的回答 100% 保護者の肯定的回答 90.2% 【次年度の方針】 ①基本的な生活習慣定着のため、年度当初、教職員の共通理解の徹底を図る。（清北小スタンダードの活用）また、学校や学級での様子をHPや学年だよりで積極的に発信し、保護者の理解・協力・連携を強化する。 ②年度初めに学級できまりやマナーを確認し、問題行動が発生した時には共通理解し即対応する。また、児童会主体で啓発活動（児童総会にて、きまりの確認や正しい廊下の歩き方）を行い、全児童が同じ価値観で実践できるようにする。 ③道徳や学級活動の時間を通じて、公共の施設や学童保育等での過ごし方について指導する。

	B3 児童は、積極的に自分の考えを表現したり、相手の話を聞いたりしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、積極的に自分の考えを表現したり、相手の話を聞いたりしている。」における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒教職員 80%以上	①児童の主体的・対話的な活動を重視した授業展開を工夫したり、授業形態を工夫して自分の考えを表現する場を計画的に位置づけ、相手を意識した表現方法の指導を行ったりする。 ②表現力やコミュニケーション力の育成を図るため、全学年で行う夢育劇場や、ことばの授業における朗読発表、外部講師による話し方講座を通し、話すことや聞き方を重視した授業の展開を工夫する。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 77.2% 教職員の肯定的回答 100% 【次年度の方針】 ①児童の主体的・対話的な活動を重視した授業展開を工夫したり、授業形態を工夫して自分の考えを表現する場を計画的に位置づけ、相手を意識した表現方法の指導を行ったりする。 ②表現力やコミュニケーション力の育成を図るため、昼会スピーチで話す内容を工夫したり、自信をもって発表できるように練習や指導の充実を図ったりする。また、夢育劇場では、話すことや聞き方を重視した指導方法を工夫する。
	B4 学校は、地域の素材や教育力（歴史や自然、文化、人材等）を生かし、教育活動の充実を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、地域の素材や教育力（歴史や自然、文化、人材等）を生かし、教育活動の充実を図っている。」における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒教職員 80%以上	①特認校としての特色ある教育活動を学校経営の軸として教育課程に位置付け、学校と家庭・地域の双方向的な関係としての「地域とともにある学校」を実践する。 ②生活科や社会科、総合的な学習の時間など、<u>学習の目的を児童に十分理解させた上で、地域の素材や教育力を生かした学習活動を意図的・系統的に取り入れる。</u>	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 83.2% 教職員の肯定的回答 100% 【次年度の方針】 ①特認校としての特色ある教育活動を学校経営の軸として教育課程に位置付け、学校と家庭・地域の双方向的な関係としての「地域とともにある学校」を実践する。 ②生活科や社会科・総合的な学習の時間など、地域の素材や教育力を生かした学習活動を意図的・系統的に取り入れ、その目的を児童に理解させた上で、有意義な活動となるようにする。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

学校マネジメント評価において、80%以上の肯定的な回答を得た項目は、児童評価 18/19、保護者評価 16/17、地域住民評価 11/11、教職員評価 24/24 と多く、全体として学校教育に対する満足度、及び達成度は高い。児童、保護者、地域住民、教職員の肯定的回答状況から児童は概ね落ち着いて学校生活を送り、学習や学校行事等への取組状況も良好であると言える。今後も、実態に即した指導・支援を継続することで、更なる改善を図っていききたい。

○A3「児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」の項目については、児童・保護者・教職員のすべてにおいて肯定的回答率が市の平均を上回った。今年度も、夢育劇場や外部講師を招いた学習活動を充実させることができた。また、「学校地域秋季大運動会」「きよきた船頭まつり」を保護者や地域の方々の協力を得ながら開催できた。各学習や行事において、児童に目標をもたせて、目標に向かって努力する大切さについて指導を積み重ねてきた結果であると思われる。今後も保護者・地域の方々のご協力をいただきながら継続して指導していききたい。

○A12「教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。」の項目については、児童・保護者・教職員のすべてにおいて肯定的回答率が市の平均を上回った。今後も、児童の様子や変化に注意するだけでなく、保護者との連携を続けながら児童にとって居甲斐のある学級を構築していききたい。

○A13「学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。」の項目については、児童・保護者・地域住民・教職員のすべてにおいて肯定的回答率が市の平均を上回った。今後も、児童の個性を尊重し、よさを認め励ましながら自己有用感や自己肯定感を高められるような指導を行っていききたい。

○A18「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」の項目については、児童・保護者・地域住民・教職員のすべてにおいて肯定的回答率が市の平均を上回った。今後も、小規模特認校として家庭・地域・企業と連携した特色ある教育活動（「板戸学習プログラム」等）において、子供たちに身に付けさせたい力を明確にし、外部講師や専門家等の協力を得ながら教育活動を維持・発展させていききたい。

○A19「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」の項目については、保護者・地域住民・教職員のすべてにおいて肯定的回答率が100%であった。今後も、日頃の安全点検や安全管理を十分に行い、修繕が必要な

箇所は早期対応を心掛け、児童や学校施設利用者の安全確保に努めていきたい。

- ・ A11「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。」の項目については、児童・保護者・教職員の肯定的回答率は市の平均を上回ったが、地域住民の回答率が下回った。引き続きアンケートや教育相談、日常の児童観察等を十分に行い、全職員でいじめの未然防止、早期発見、早期解決などに努めるだけでなく、児童が主体となったいじめ防止に向けた活動をさらに充実させ、地域の方々にも積極的に情報発信していきたい。
- ・ B1「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」の項目については、児童・教職員については肯定的回答率が市の平均を上回ったが、保護者・地域住民においては、僅かに下回った。挨拶については、引き続き、あいさつ運動の実施や児童への啓発を行っていききたい。また、児童会を中心に挨拶を啓発する集会活動なども新たに実施し充実を図っていききたい。
- ・ B3「児童は、積極的に自分の考えを表現したり、相手の話を聞いたりしている。」の児童の肯定的回答率はやや低かった。表現力やコミュニケーション力の育成を図るため、昼会スピーチで話す内容を工夫したり、自信をもって発表できるような練習や指導の工夫を図ったりしていく。また、普段の授業や夢育劇場等を通して、話すことだけでなく聞き方も重視した指導方法を工夫・改善していきたい。

7 学校関係者評価

- ・ A11～A14、A18・A19の保護者の肯定的回答率がとても高くなっている。これは、保護者の学校に対する高い満足を示す数値ではないかと感じる。清原北小は、小規模特認校として特色ある教育を行っているが、この部分を清原北小の「強み」と考えることができ、教職員の努力の賜物だと感じる。
- ・ B1の挨拶に関しては、子供たちは地域において挨拶をしていると感じる。さらに保護者の率先した挨拶・協力が必要である。子供たちから挨拶をされると地域住民としても嬉しい。
- ・ 企業でも挨拶はコミュニケーションの一部として重要視されている。挨拶は、「相手を尊ぶ」という意識が大切である。子供、学校、保護者、地域が一体となって挨拶を盛り上げていきたい。
- ・ A11いじめに関しては、子供同士の悪ふざけが周囲からはいじめに見えることがある。いじめを見極められるよう子供と周りの大人がさらにコミュニケーションを図っていく必要がある。
- ・ A17「小中一貫教育・地域学校園」の取組に関しては、学校のホームページや学校だより等の情報発信に地域としても目を向けていきたい。
- ・ 以前は、児童の挨拶やマナーの向上に学校として苦心していたが、教職員や保護者の努力の甲斐があり、高評価になった。これからも、継続してほしい。
- ・ 人前で発表する活動は、これからも継続してほしい。活動への目標になるし、場数を踏めば人前でうまく話すことができるようになる。また、聞く力を育てる活動もよい。自己中心的にならず、周りの意見を聞いて許容する心を児童に育ててほしい。
- ・ 特色ある学校づくりに苦心し、毎年手を加えて行事を工夫して行う教職員の努力に感謝する。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

多くの評価項目において、市の肯定的回答率と比較し、同等または上回る結果となった。普段の学習だけでなく、学校行事、外部講師による授業など、児童に目的意識をもたせながら実践させてきたことが、学校教育活動の充実につながっていると思われる。

次年度も、挨拶については、学校や地域学校園におけるあいさつ運動、児童会を主体とした集会活動等の機会も活用し、自発的な挨拶の啓発に努める。いじめ防止については、アンケートの継続的な実施や教育相談のみならず、日頃からいじめの未然防止に関する指導や早期発見に努める。また、いじめ防止に向けた取組をホームページや各種たより、地域学校協議会において積極的に情報発信していく。

学習においては、授業のねらいを明確にし、課題意識をもって授業に取り組めるよう引き続き支援していく。また、授業の中で、互いの思いや考えを伝え合う場や他者と協力して必要な情報を集めたりする場を意図的に設定し、学び合い高め合う授業の工夫を推進していく。

「デジタル機器の活用」については、学年の発達段階に応じた適切な指導や効果的な活用法について、職員研修等を通して教職員で共有していく。

「地域とともにある学校」として、本校の特色である板戸の地域素材や教育力を生かした「板戸ふれあい学習」を地域と学校が連携しながら推進していく。

働き方改革の推進として、教職員一人一人が勤務時間を意識し業務の効率化や見直しを図り、限られた時間で最大の効果が得られるような業務への取組を行っていく。

